

第四紀洪積世と呼ばれる氷河期で知られる時代からもう少し古い第三紀鮮新世にかけての地層が分布します。一番下には、飯能層（飯能礫層）城山の崖で見られます）、滝不動のところで段丘の話を紹介していますが、下末吉面で堆積した金子礫層と上部の鶴ヶ丘粘土層、火山灰層（関東ローム層）、標高 35m 以上では、金子礫層に変わって武蔵野面の武蔵野礫層と火山灰層（関東ローム層）が覆っています。いずれの礫層も礫という名前が付きますが、粘土層や砂層も挟んでおり、一様ではありません。水道用などの深井戸が断面図に示されていますが、金子礫層と飯能層の水をとるために掘られています。もちろん、武蔵野礫層でも家庭用などの浅い井戸がたくさん掘られています。

昭和 50 年に新藤静夫先生たちが坂戸台地の地下水分布を調べました。たくさんの井戸で一斉に地下水面の高さを測定するもので、この結果を等高線で表すと、下の図のようになります。



坂戸台地の浅層地下水の流動状況と湧水帯（新藤 1976 の湧水資料より）

出典：鶴ヶ島町 鶴ヶ島町史自然編 I 平成 2 年 3 月

等高線と直行して地下水は流れます。昔の坂戸台地は雑木林に覆われ、関東ローム層は亀裂が多いため、台地に降った雨はかなりの量が地下に浸透します。そしてこのような地下水として蓄えられました。今では、水道水などの水源として井戸でくみ上げられ、また都市化が進み、雨水は地下に入らず、川にさっと流れてしまいます。また、水道水として使われた後の下水は、小畔川の方に排水されます。このため、高麗川方向へ向かう水が少なくなり、高麗川の水位低下に繋がっているのではと心配されています。

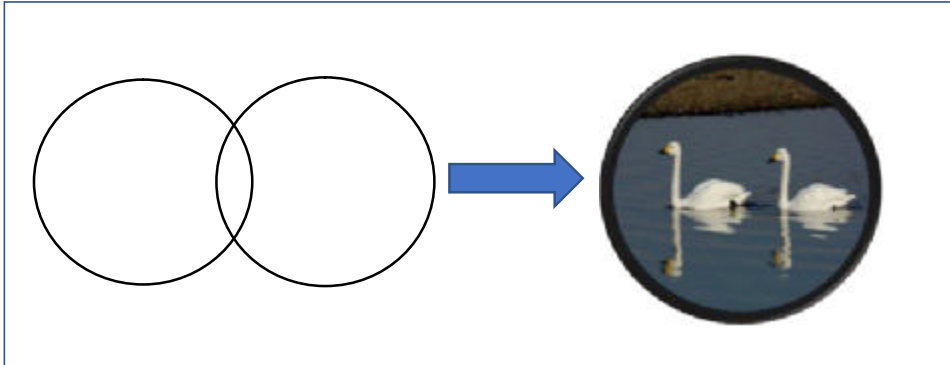
（稲垣）

9. 観察のコツ

9.1 鳥たち

(1) 双眼鏡の調整

- ① メガネをかけている人は目当てゴムを折ります。
- ② 両目でのぞき、目の幅をあわせて、視界を丸くします。



- ③ 右目を閉じて左目だけでのぞき、双眼鏡の中央にあるピントリングを動かしてピントを合わせます。
- ④ 左目を閉じて右目だけでのぞき、右目の接眼レンズ近くの視度調節リングを動かしてピントを合わせます。
- ⑤ 両目でのぞいてクリアだったら準備完了です。
 - ☆ この後は両目でのぞき、ピントリングだけでピントを合わせることができます。
 - ☆ 双眼鏡のおすすめの倍率は8倍×30ミリ(口径)です。10倍、口径が小さいものは視野が狭くなるので野鳥を探すのが難しくなります。

(2) 野鳥の探し方

- ① 肉眼で、広く眺めて、風景の中で動く物を探します。
動く物は、野鳥、昆虫など動物であることが多いです。
- ② 野鳥を見つけたら、頭を動かさずに、野鳥を見ている状態のまま双眼鏡を当ててのぞきます。野鳥から目を離すと見失ってしまいます。
- ③ 野鳥が好きな場所、さえずりや地鳴きを覚えると見つけやすくなります。
- ④ 野鳥を見つけたら、その野鳥が何をするのか、しばらく観察してみましょう。実を食べたり、狩りをしたり、争ったり、子どもの世話をしたり、野鳥の生活には不思議がいっぱいです。

(富田)

コラム 野鳥が好きな木の実



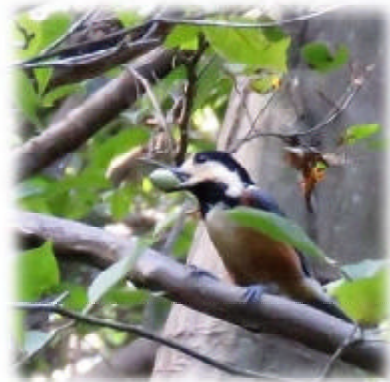
ヌルデ(ウルシの仲間)の実の人気



↑シメ

↓ヤマガラ 松かさの間の種子を食べる。

↑イカル サクラランボも大好き。ドン
グリも可いくちばしで食べてしまう。



↑毒のあるエゴノキの実
もヤマガラは平気



ぼくはアオゲラ
キツツキだから、
木をつついて虫
を探すのが得意。
でも、木の実も大
好き。エノキの実
は、おいしいよ。

(富田)

9.2 植物

花の観察 表記の花期は目安です。 / 全ての花を見るには毎週訪れる。

植物を見分けるには花を見るのが一番ですし、目を楽しませてくれるのも花です。けれども花の咲く時期は種によって異なり、春に咲く花、夏や秋に咲く花、冬に咲く花もあります。そして桜のように短期間に一せいに咲いて散るものもあれば、長い間咲いているものもあり、その年の気候によっても変わります。ですから図鑑に記されている花期は目安です。また同じ時期の花でも少しずつ開花が異なる場合が多く、特に春から夏にかけての城山で全ての花を見るには、1週間から10日ごとに訪れることになります。



どっちがどっち 樹木の見分け方

スギやヒノキ、コナラやクヌギなどは普段よく聞く名前ですが、山ではなかなか見分けが付きにくいものです。樹木は、花のない時期は木肌(樹皮の色と模様)と葉の形から種類を見分けます。高い所の葉は双眼鏡で確かめます。冬の落葉樹は周りの落ち葉を探して葉の形を確かめます。以下に城山の主な樹木の木肌と葉の特徴を示しました。

スギ (常緑樹)
樹皮：茶褐色で縦に細い皮目で剥がれる。
葉：1cm くらいの針状で小枝に密集。



シラカシ (常緑樹)
樹皮：灰白色で小さな凹凸がある。
葉：7~14cm の狭楕円で緩い鋸歯がある。



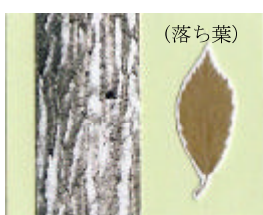
ヒノキ (常緑樹)
樹皮：赤褐色でスギより巾広く剥がれる。
葉：1~3mm の鱗状で網目状に広がる。



アラカシ (常緑樹)
樹皮：薄茶色で小さな凹凸がある。
葉：7~12cm の楕円で先半分に荒い鋸歯。



コナラ (落葉樹)
樹皮：灰白色で縦に不規則な皮目がある。
葉：5~12cm の倒卵形で荒い鋸歯がある。



ヤマザクラ (落葉樹)
樹皮：紫褐色で横に皮目が入る。
葉：8~10cm の卵形で細かな鋸歯がある。



クヌギ (落葉樹)
樹皮：濃褐色で縦横に不細かな溝が入る。
葉：8~15cm の披針形で鋭い鋸歯がある。



イヌザクラ (落葉樹)
樹皮：灰白色で横に皮目がはいる。
葉：5~10cm の楕円で細かな鋸歯がある。



(萩原)

9.3 魚たち

観察をするには、たも網を持って、川に入りましょう。色々な種類の魚が捕れます。釣りも良いですが、釣れる魚に限られます。たも網がお勧めです。

たも網を持って川に入るには、それなりの格好が求められます。一つには自分の足が魚を捕まえる道具になるからです。また、高麗川は大きな石がごろごろしているところが多いので、足元をしっかりとする必要があります。サンダルなどではなく、運動靴など足にフィットするものを履いて入りましょう。

たも網は、プロ仕様は右の写真のとおりです。もちろん、一般の釣り道具屋さんに売っている直径 30 cm の丸いたも網で大丈夫です。柄の長さは 1 m ほどあったほうが使いやすいです。

たも網の使い方も右の写真を参照にしてください。

まずは、たも網を魚が居そうな場所の下流側に立てて固定します。片足はたも網の横に置きます。そして、上流側からもう一方の足でジャバジャバと魚を追い立てて、網に誘います。網をしっかりと固定することが大事です。

狙う場所は、魚の種類で主に 2 つあります。

基本は、岸辺で魚が隠れるのによさそうな草が覆いかぶさっている場所を狙います。

もう一つは、流れの中心の大きな石の影を狙います。こちらは、カジカの狙い場所です。ここでも下流側にたも網を固定して、石の周りを足でジャバジャバしたり、石を動かす等で追い立てて、網に誘います。

湧き水があるところも狙い場所です。ジュズカケハゼなど、湧水が好きな魚がいます。

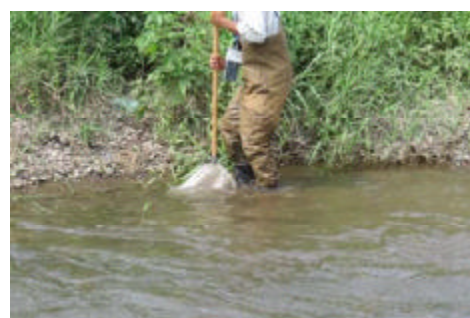
魚捕りの注意事項がいくつかあります。

流れがあるところでは膝より上に水面が来ると流されると思ってください。夢中になって、深みにはまらない様に注意願います。

触るときに注意が必要な魚がいます。例えば、ギバチはトゲを持っていて刺されると結構痛いです。見たことのない魚に触る時には注意願います。

捕った魚は、観察が済んだら川に返すのが基本です。可愛いので持ち帰りたいたいが、水温の管理などは簡単ではありません。死なせてしまうことが多いです。ただ、コクチバスなどの特定外来種は放すことが出来ません。コクチバスは美味しいので持ち帰って食べることをお勧めします。

(稲垣)



コラム 生き残ったホトケドジョウを守る方法

下図に橙色で示す坂戸台地はかつて湧き水が多く、そのため、動植物も人も暮らしやすい所でした。ところが、急速な都市化に伴い、湧き水は減り、生活の場を奪われた生きものは絶滅の危機に瀕しています。その代表が埼玉県絶滅危惧ⅠAとなったホトケドジョウです。関係者ヒアリング、これまでの調査の状況、現在の生息状況を把握して、実態を住民の方々に知っていただき、みんなの英知で住みやすい環境を創造することが必要と考えました。

このため、地元で自然観察、保全活動や環境調査に携わっている方でホトケドジョウ調査会を立ち上げました。専門家の方の助言を受けて、坂戸台地・毛呂山台地及び取り囲む毛呂山丘陵、岩殿丘陵、高麗丘陵、関東山地の低標高部、越辺川流域の90数箇所において生息確認調査をおこないました。また、武州ガスの助成金をいただき、環境DNA調査を実施することもできました。

結果は報告書としてまとめ、関係自治体に報告すると共に、環境学館いずみに報告パネルを設置するなどして知らずに生息環境が壊されないことを願っています。



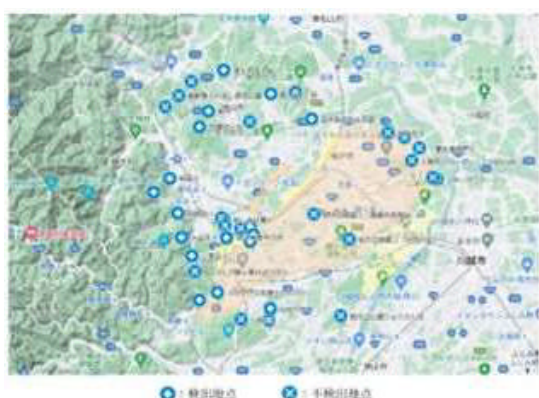
ホトケドジョウ調査会の調査状況



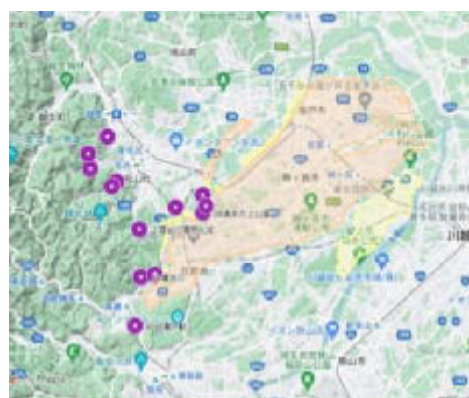
確認されたホトケドジョウ



調査位置図



環境DNAの調査結果



ホトケドジョウの生息を確認した位置

10. 観察の記録

10.1 野鳥観察会の記録

環境学館いずみの自然観察の講座で観察した野鳥と市民団体（高麗川ふるさと会、坂戸サワギキョウ会・鳩山野鳥の会）が観察した野鳥の記録を表にまとめました。

① 場所：城山（新しき村～城山の森～高麗川）

滝不動（森戸橋～多和目橋）

浅羽ビオトープ（若宮橋～関越自動車道までの川、河川敷、浅羽側田んぼ）

こはるが池（池、周辺田んぼ、葛川含む）

小沼（道場橋～東清掃局までの越辺川兩岸、坂戸側の田んぼ含む）

② 時期：1999年～2023年3月

③ 観察者：環境学館いずみ観察会参加者、坂戸サワギキョウの会会員、高麗川ふるさと会の会員、鳩山野鳥の会会員、坂戸野鳥観察会会員

④ 方法：目視、双眼鏡、フィールドスコープでの観察

⑤ 記録の対象：野鳥

⑥ 種の同定：2名以上の目視、さえずり・地鳴き聞き取り、食痕、羽毛採取、写真判定

⑦ 表の見方：上記期間に坂戸市内で確認した野鳥をすべて表に記載しました。

観察した季節に下記の記号を記入しました。

◎→いつも観察できる、○→観察できることが多い、△→ときどき観察できる、

▲→まれに観察できる

珍しい野鳥や猛禽類の撮影のために多くの人が集まり、トラブルになることが懸念されるため、観察した場所については、記載を避けました。

<見る機会が増えている野鳥>

トビ、ノスリ、ヤマガラ、キビタキ、アオサギ、ハシブトガラス、ガビチョウ

<見る機会が減っている野鳥・群れが小さくなった野鳥>

ホオジロ、カシラダカ、オオヨシキリ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、ササゴイ、コシアカツバメ、イワツバメ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、タゲリ、ケリ、コチドリ、イソシギ

<見られなくなった野鳥>

ヤマセミ、チュウヒ、アマサギ、シラコバト、ヨシゴイ、ニューナイスズメ、ホオアカ、サシバ

市内の住宅地を流れる飯盛川はかつて生活排水が問題になりましたが、下水道の普及率が上がり、水質が改善され、カワセミやバン、セキレイなど野鳥が戻ってきています。カルガモの営巣も確認されています。坂戸は変化に富んだ自然環境が身近にあるので、たくさんの野鳥に出会えます。しかし、20年前と比べると出会える種の数には確実に減少しており、野鳥の生息環境は国内の他の地域と同様に劣化していると思われます。

坂戸の野鳥 (1999~2023年)

◎いつも、○ふつうに、△ときどき、▲まれに
3~5月 6~8月 9~11月 12~2月

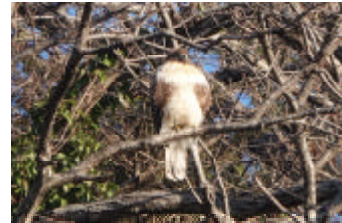
科名	種名	春	夏	秋	冬	時期不明	科名	種名	春	夏	秋	冬	時期不明
キジ	キジ	◎	◎	◎	◎		カモメ	ユリカモメ				▲	
カモ	オオハクチョウ				▲		カモメ	カモメ				▲	
	コハクチョウ	△		△	◎		セグロカモメ						▲
	アメリカコハクチョウ				▲		アジサシ	▲					
	オンドリ			▲	▲		コアジサシ	▲					
	マガモ	○		○	○		ミサゴ	ミサゴ			△	△	
	カルガモ	◎	◎	◎	◎		タカ	ハチクマ					▲
	トモエガモ				▲		トビ	トビ	○	○	○	○	
	コガモ	◎		◎	◎		ツミ	ツミ	○	○	△		
	ヨシガモ				△		オオタカ	オオタカ	○	○	○	○	
	オカヨシガモ	△		△	△		ハイタカ	ハイタカ	○		○	○	
	ヒドリガモ			△	△		サシバ	サシバ	▲	▲	▲		
	アメリカヒドリガモ (交雑)				▲		ノスリ	ノスリ	○	△	△	○	
	オナガガモ	○		△	◎		イスワシ	イスワシ					▲
	ハシビロガモ				△		ハイロチュウヒ	ハイロチュウヒ				▲	
	ホシハジロ			▲	▲		チュウヒ	チュウヒ				▲	
	アカハジロ				▲		フクロウ	コミミズク				▲	
	キンクロハジロ			△	△		フクロウ	フクロウ	▲	▲	▲	▲	
	スズガモ				▲		アオバズク	アオバズク	▲	▲			
	ホオジロガモ				▲		カワセミ	カワセミ	○	○	○	○	
	ミコアイサ				▲		ヤマセミ	ヤマセミ	▲				
カイツブリ	カイツブリ	◎	◎	◎	◎		キツツキ	アリスイ			▲		
	カンムリカイツブリ				▲		アカゲラ	アカゲラ	○	○	○	○	
ハト	キジバト	◎	◎	◎	◎		アオゲラ	アオゲラ	○	○	○	○	
	シラコバト	▲	▲				コゲラ	コゲラ	◎	◎	◎	◎	
	アオバト	▲					ハヤブサ	ハヤブサ			△	△	
ウ	カワウ	◎	◎	◎	◎		コチョウゲンボウ	コチョウゲンボウ	▲				
サギ	ヨシゴイ	▲	▲				チョウゲンボウ	チョウゲンボウ	○	○	○	○	
	ミソゴイ	▲					サンショウクイ	サンショウクイ	△				
	ゴイサギ	△	△	△			カササギヒタキ	カササギヒタキ	△	△			
	ササゴイ		△	△			モズ	モズ	◎	◎	◎	◎	
	アマサギ		▲				カラス	オナガ	◎	◎	◎	◎	
	ダイサギ	◎	◎	◎	◎		カケス	カケス	○	○	○	○	
	チュウサギ			△			ミヤマガラス	ミヤマガラス				▲	
	コサギ	△	△	△	△		ハシブトガラス	ハシブトガラス	◎	◎	◎	◎	
	アオサギ	◎	◎	◎	◎		ハシボソガラス	ハシボソガラス	◎	◎	◎	◎	
クイナ	クイナ				△		シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○	○	
	ヒクイナ					▲	ヒガラ	ヒガラ	▲				
	バン	○	○	○	○		シジュウカラ	シジュウカラ	◎	◎	◎	◎	
	オオバン	◎		○	◎		ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○	
カッコウ	カッコウ		△				ツバメ	ショウドウツバメ			▲		
	ホトトギス		△				ツバメ	ツバメ	◎	◎	△		
	ツツドリ	▲		▲			コシアカツバメ	コシアカツバメ	▲		▲		
ヨタカ	ヨタカ				▲	イワツバメ	イワツバメ	△					
アマツバメ	ヒメアマツバメ	▲					ヒヨドリ	ヒヨドリ	◎	◎	◎	◎	
	アマツバメ			▲			ウグイス	ウグイス	◎	○	○	◎	
チドリ	チドリ	△	△				ヤブサメ	ヤブサメ	△	△			
	イカルチドリ	△	△	△	△		エナガ	エナガ	○	○	○	○	
	ムナグロ	▲					ムシクイ	メボソムシクイ	▲				
	ケリ				▲		ムシクイ	エゾムシクイ	▲				
	タゲリ				▲		ムシクイ	センダイムシクイ	▲				
シギ	ヤマシギ				▲		メジロ	メジロ	◎	◎	◎	◎	
	タシギ				▲		ヨシキリ	コヨシキリ		▲			
	アカアシギ					▲	ヨシキリ	オオヨシキリ	△	△			
	ツルシギ			▲			セッカ	セッカ	△	△			
	アオアシギ			▲			レンジャク	ヒレンジャク	△			△	
	クサシギ	△		△	△		レンジャク	キレンジャク	△			△	
	タカブシギ					▲	ミソサザイ	ミソサザイ					▲
	キアシギ	▲					ムクドリ	ムクドリ	◎	◎	◎	◎	
	イソシギ	△		△	△		ムクドリ	コムクドリ	▲				
	トウネン					▲							
	ハマシギ					▲							
	アカエリヒレアシギ		▲										

◎いつも、○ふつうに、△ときどき、▲まれに
3~5月 6~8月 9~11月 12~2月

科名	種名	春	夏	秋	冬	時期不明
ヒタキ	トラツグミ	▲			▲	
	シロハラ	○		△	○	
	アカハラ	△			△	
	ツグミ	◎		○	◎	
	コルリ	▲				
	ノゴマ					
	ルリビタキ				▲	
	ジョウビタキ	◎		○	◎	
	ノビタキ			△		
	イツヒヨドリ	▲	▲		▲	
	エゾビタキ			▲		
	サメビタキ			▲		
	コサメビタキ			▲		
	キビタキ	○	○			
オジロビタキ					▲	
オオルリ	△	△				
イワヒバリ	カヤクグリ					▲
スズメ	ニューナイスズメ	▲				
	スズメ	◎	◎	◎	◎	
セキレイ	キセキレイ			○	○	
	セグロセキレイ	◎	◎	◎	◎	
	ハクセキレイ	◎	◎	◎	◎	
	ビンズイ				△	
	タヒバリ				△	
アトリ	アトリ	△		△	△	
	マヒワ	▲				
	カワラヒワ	◎	◎	◎	◎	
	ベニマシコ	△		△	△	
	ウソ				▲	
	シメ	○		△	○	
	コイカル					▲
	イカル	△		△	△	
ホオジロ	ホオジロ	◎	◎	◎	◎	
	ホオアカ	▲	▲			
	カシラダカ	○		△	○	
	ミヤマホオジロ				▲	
	アオジ	○		△	○	
	クロジ				▲	
	コジュリン				▲	
	オオジュリン				△	
観察種合計	163					
外来種キジ科	コジュケイ	○	○	○	○	
外来種ハト科	カワラバト(ドバト)	◎	◎	◎	◎	
外来種	カオグロガビチョウ	○	○	○	○	
	ガビチョウ	◎	◎	◎	◎	
	ベニスズメ				▲	
	ソウシチョウ				▲	
	バリケン				▲	
計	170					

注) 赤の着色は埼玉県のレッドデータブックに記載されている種。
なお、全県DDは除き、RTは本書では全県RTで記載しているが、
このリストでは丘陵地と荒川以西に該当した種のみ記載した。

見る機会が増えている鳥



ノスリ



アオサギ

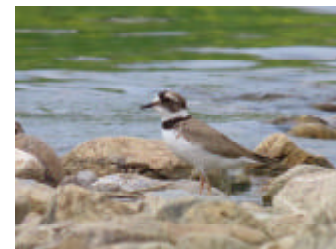


ガビチョウ

見る機会が減っている鳥



カシラダカ



イカルチドリ



ゴイサギ

(富田)

観察の一コマ（大人になる）



サナギから脱皮したばかりのキアゲハ。イタリアンパセリの植木鉢で育ちました。



同ジャコウアゲハとそのサナギの殻。環境学館いずみ生まれです。



シジュウカラの雛。お母さんの真似をして餌を採る練習中。トレードマークのネクタイ模様がまだ薄いです。



巣立ったばかりのスズメ。親がすぐ近くで心配そうに見守っています。嘴の黄色が初々しいです。

10.2 魚観察会の記録

環境学館いずみの自然観察の連続講座では、ほぼ毎年魚とりを行い、記録しています。捕獲の場所、時期、方法等は以下の通りです。

- ① 場所：高麗川の戸口橋もしくはこれよりやや下流。
- ② 時期：7月～8月の夏のほぼ10:00～11:30（天候や河川の状態未実施年あり）
- ③ 捕獲者：魚類に詳しい講師の指導の下、講座の参加者、ほぼ20～30名程度。
- ④ 方法：玉網（タモ）による。（タモでは採りにくい種は、確認できていません。）
- ⑤ 記録の対象：魚類とエビ（アメリカザリガニは未記載）
- ⑥ 種の同定：講師による目視判定。

魚種のリストは、当日捕獲できた種を「○」で示しています。

河川の水量等によって、取る場所や魚の状況が変化するので単純に経時変化を見ることができませんが、ヌカエビが居なくなりカワリヌマエビが増えていました。2019年には、心配していた特定外来種コクチバスの稚魚が捕れ、2020年も成魚が捕れましたが、その後は確認できていません。

自然観察会で確認できた魚たち

調査年月日	2010年 8月22日	2015年 8月23日	2018年 8月26日	2019年 7月18日	2020年 8月16日	2022年 8月21日	2023年 8月20日
講師	渡辺昌和先生	渡辺昌和先生	久保武彦先生他	久保武彦先生他	久保武彦先生他	坂本有加先生他	西岡良晃先生他
川の状況	平常状態	17日に大水が出た	水量かなり多い	水量多い※1	平常状態	平常状態	やや水量多い
アブラハヤ	○	○	○	○	○	○	
スナゴカマツカ			○		○	○	
ニゴイ			○		○		
ギンブナ			○				
ヒガシマドジョウ	○	○	○	○	○	○	○
ドジョウ					○		
ギバチ	○						
ムサシノジュズカケハゼ	○	○	○	○	○	○	○
カジカ（大卵型）	○	○		○	○	○	
オイカワ	○	○			○	○	○
カワムツ	○	○			○	○	○
タモロコ		○	○		○		
モツゴ							○
カムルチー							○
ナマズ				○	○		○
オウミヨシノボリ	○	○	○		○	○	○
ミナミメダカ			○	○	○	○	○
コクチバス				○（稚魚）	○		
スジエビ	○		○	○	○	○	○
ヌカエビ	○	○					
カワリヌマエビ※2		○	○	○	○	○	○

※1 19号台風で川が様変わり ※2 シナヌマエビともいう

(稲垣)

10.3 虫たちの記録

市内で観察した虫たちの記録を、表にまとめました。

①場 所：坂戸市内

②時 期：2017年～2023年（いずれも3月～10月）

観察時間は概ね午前中

③記 録 者：河合

④方 法：目視、まれに捕虫網による採集

⑤記録の対象：チョウ、トンボ

⑥種の同定：写真による判定または目視、拾った羽（チョウ）

⑦表の見方：観察期間内に確認できたチョウとトンボを、それぞれ月ごとにまとめました。

◎→いつも観察できる、○→観察できることが多い、△→ときどき観察できる

▲→まれに観察できる

○チョウについて

外来種については、アカボシゴマダラがゴマダラチョウと比べて確認个体数が多く、在来種の減少が心配されます。

絶滅危惧種では、最近の調査でジャノメチョウ・が市内で確認できていません。

2021年～2023年の間にオナガアゲハ、クモガタヒョウモン、アオバセセリの3種が新たに確認できました。

○トンボについて

絶滅危惧種のムカシヤンマが年によって確認できないことがありますが、それ以外の絶滅危惧種はほぼ毎年確認できています。

絶滅危惧種ではありませんが、ミルンヤンマ、ミヤマカワトンボ、モノサシトンボ、ホソミオツネトンボは、年によって確認できないことがあります。

2021年～2023年の間にコシボソヤンマ、ダビドサナエ、アオイトトンボ、クロイトトンボ、キイトトンボの5種が新たに確認できました。

(河合)

坂戸市内で観察できた虫たちの記録（チョウ）

◎いつも ○ふつうに △ときどき ▲まれに

	昆虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	クロアゲハ			○		○		○	
2	オナガアゲハ			▲					
3	アゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○
4	キアゲハ		○	○	○	○	○	○	
5	ジャコウアゲハ			○		○		○	
6	アオスジアゲハ		○	○	○	○	○	○	○
7	カラスアゲハ			▲			▲		
8	ナガサキアゲハ			△		△		△	
9	モンキアゲハ			△	△		△	△	
10	ウスバシロチョウ		△						
11	ホソオチョウ		○			○	○	○	
12	モンシロチョウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
13	モンキチョウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
14	キタキチョウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
15	ツマキチョウ	○	○	○					
16	スズグロシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○
17	ベニシジミ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
18	ヤマトシジミ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
19	ツバメシジミ		○	○	○	○	○	○	
20	ルリシジミ	△	△	△	△	△	△	△	
21	コツバメ	△	△						
22	ウラナミシジミ							◎	◎
23	アカシジミ			△	△				
24	ウラナミアカシジミ			△	△				
25	ミズイロオナガシジミ				△				
26	トラフシジミ			▲	▲	▲			
27	ウラゴマダラシジミ			○	○				
28	オオムドリシジミ				▲				
29	ウラギンシジミ		○	○	○	○	○	○	
30	ムラサキシジミ		○	○	○	○	○	○	○
31	ムラサキツバメ							△	△
32	ゴイシシジミ			△	△	△	△	△	△
33	キタテハ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
34	ヒメアカタテハ			○	○	○	○	○	○
35	アカタテハ	△		△			△	△	△
36	ルリタテハ	○	○			○	○	○	
37	コミスジ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
38	ミスジチョウ			▲	▲				
39	イチモンジチョウ			○	○	○	○		
40	アサマイチモンジ			○	○	○	○		
41	サカハチチョウ							▲	
42	ツマグロヒョウモン		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
43	ミドリヒョウモン							△	△
44	メスグロヒョウモン							▲	
45	ウラギンヒョウモン			▲				▲	
46	オウゴンシジミ				▲				▲
47	クモガタヒョウモン			▲					▲
48	テングチョウ	○	○	○	○	○			
49	コムラサキ			△	△	△	△		
50	ヒオドリシチョウ	▲	▲	▲					
51	ゴマダラチョウ			△	△	△	△	△	
52	アカボシゴマダラ			○		○	○	○	
53	オオムラサキ					▲	▲		
54	ヒメウラナミジャノメ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
55	ヒメジャノメ			○	○	○	○	○	○
56	コジャノメ		○	○	○	○	○	○	○
57	ヒカゲチョウ			○	○	○	○	○	○
58	クロヒカゲ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
59	ジャノメチョウ								
60	サトキマダラヒカゲ			◎	◎	◎	◎	◎	
61	クロノマチョウ		○	○	○	○	○	○	○
62	アサギマダラ								▲
63	ダイミョウセセリ			◎	◎	◎	◎	◎	
64	ギンイチモンジセセリ		△			△	△	△	
65	イチモンジセセリ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
66	チャバネセセリ				○	○	○	○	○
67	オオチャバネセセリ				△		△		
68	ミヤマセセリ	○	○						
69	キマダラセセリ				○		○		
70	ヒメキマダラセセリ			○	○	○	○		
71	コチャバネセセリ			△	△	△	△		
72	アオバセセリ						▲		

…は2021～2023に新たに確認できたもの

…は絶滅危惧種

坂戸市内で観察できた虫たちの記録（トンボ）

◎いつも ○ふつうに △ときどき ▲まれに

	昆虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	クロスジギンヤンマ				▲				
2	ギンヤンマ					○	○	○	
3	サラサヤンマ			△	△				
4	ミルンヤンマ						▲	▲	▲
5	コシボソヤンマ						▲		
6	カトリヤンマ					△	△	△	△
7	オニヤンマ						○	○	○
8	コオニヤンマ				○	○	○	○	
9	コヤマトンボ			△	△	△		△	
10	ムカシヤンマ			▲					
11	オナガサナエ				○	○	○	○	
12	ヒメサナエ			△	△				
13	オジロサナエ				△	△	△		
14	ダビドサナエ		△	△					
15	ホンサナエ			△					
16	アオサナエ			△					
17	ヤマサナエ			△	△				
18	ミヤマサナエ				△				
19	ハグロトンボ				◎	◎	◎	◎	◎
20	アオハダトンボ			○	○				
21	カワトンボ			○	○				
22	ミヤマカワトンボ				▲				
23	オオアオイトトンボ							○	○
24	アオイトトンボ							△	△
25	シオカラトンボ			◎	◎	◎	◎	◎	◎
26	オオンシオカラトンボ			○	○	○	○	○	
27	シオヤトンボ		△	△					
28	コフキトンボ					▲			
29	ハラビロトンボ					○	○	○	
30	チョウトンボ				▲	▲			
31	ノシメトンボ							△	△
32	コノシメトンボ					△		△	△
33	リスアカネ						△	△	
34	マユタテアカネ				○	○	○	○	○
35	ミヤマアカネ				○	○	○	○	○
36	アキアカネ					◎		◎	◎
37	ナツアカネ					○	○	○	○
38	ウスバキトンボ					◎	◎	◎	
39	コシアキトンボ				△	△			
40	ショウジョウトンボ					△	△		
41	オツネントンボ			▲					
42	ホソミイトトンボ			○			○	○	
43	アジイトトンボ					○			
44	クロイトトンボ					○			
45	ホソミオツネントンボ	△		△		△			
46	モノサシトンボ						▲		
47	キイトンボ				▲	▲			

…は2021～2023に新たに確認できたもの

…は絶滅危惧種

1.1. 講師紹介

私たちの講座を支えてくださった講師の方々を紹介します。

この方々以外にも色々な講師にお世話になりましたが、本誌に係る方々のみ紹介させて頂きました。（順不同）

<p>萩原 章 講師</p>  <p>自然の中に生きている植物、生き物が好きで研究熱心なナイスガイ！</p> <p>所属：サワギキョウの会代表 講座担当：城山、滝不動の植物観察会</p>	<p>坂口 稔 講師</p>  <p>環境の変化が鳥たちの生態を脅かしてしまう事を心配しながらやさしく見守っている</p> <p>所属：高麗川ふるさとの会 講座担当：浅羽ビオトープの鳥たちの観察会</p>
<p>福島 倫子 講師</p>  <p>植物を学術的に研究・分析、植物の「なぜ？」を分かり易く解き明かしてくれる</p> <p>所属：前高麗川ふるさとの会 講座担当：浅羽ビオトープ、小沼の植物観察会</p>	<p>富田 恵理子 講師</p>  <p>自然の中で生きていく鳥や動物たちの観察を続けるぶれないフィールドワーカー</p> <p>所属：鳩山野鳥の会 講座担当：小沼、滝不動の鳥たちの観察会</p>
<p>河合 清 講師</p>  <p>蝶をはじめ、小さな生き物たちを愛する笑顔の素敵な環境学館の物知り！</p> <p>所属：坂戸市環境学館いずみ 講座担当：泉町桜堤公園付近、浅羽ビオトープの虫たちの観察会</p>	<p>稲垣 喜弘 講師</p>  <p>地層の成り立ちを科学的に分析、その上に広がる自然の魅力にはまっている</p> <p>所属：坂戸市環境学館いずみボランティアスタッフ 講座担当：坂戸台地、滝不動、多和目の湧水等観察会</p>

(赤尾、山田)

植物 索引

ア

アオキ	37	38
アカメヤナギ	41	
アキノノゲシ	34	
アケビ	57	58
アシ	40	
アマナ	89	
アレチウリ	39	40
イヌザクラ	57	58
イヌショウマ	35	36
イヌトラノオ	116	
イボタノキ	57	58
	61	
ウキゴケ	19	20
ウバユリ	35	36
ウマノミツバ	119	
ウウミズザクラ	37	38
エノキ	56	
オオシマザクラ	56	
オオバギボウシ	117	118
オオバジャノヒゲ	121	122
オオブタクサ	33	34
オギ	33	34
オドリコソウ	89	
オニグルミ	39	40
	57	58

カ

ガガイモ	59	60
カジノキ	37	38
カテンソウ	60	
ガマ	40	
カワラサイコ	59	60
カンアオイ	119	
キササゲ	57	58
キツネアザミ	33	34
キツネノカミソリ	37	38
キンラン	115	116
ギンラン	115	116
クサイチゴ	115	116
クサノオ	39	40
クヌギ	56	
	87	88

コアジサイ	118	
コウホネ	90	
コカナダモ	38	
コ克蘭	119	
コセンダングサ	34	
コバギボウシ	119	120
ゴマキ	88	
コモチシダ	122	
コモチマンネングサ	60	

サ

サイカチ	88	
サクラタデ	59	60
サラシナショウマ	117	118
サワギキョウ	120	
シダレヤナギ	41	
シャク	89	
シャクチリソバ	39	40
シロダモ	37	38
スイカズラ	59	60
ズミ	120	
ソバナ	35	36

タ

タコノアシ	39	40
タチツボスミレ	115	116
チゴユリ	121	
チダケサシ	35	36
チャノキ	37	38
ツボスミレ	115	116
ツルマンネングサ	39	40
テイカカズラ	121	122

ナ

ニガカシュウ	59	60
ヌスビトハギ	118	
ヌマガヤ	120	
ネムノキ	57	58
ノアザミ	89	
ノダケ	117	118
ノハナショウブ	120	

ハ

ハエドクソウ	117	118
ハッカ	116	
ハルジオン	33	34
ハンノキ	87	

ヒガンバナ	41	
ヒメオドリコソウ	89	
ヒメコウゾ	57	58
ヒメジオン	33	34
フデリンドウ	115	116
フユイチゴ	117	118
フユノハナワラビ	59	60
フラサバソウ	89	
ヘラオオバコ	39	40
ホウチャクソウ	117	118
ホソバシシュロソウ	35	36

マ

マムシグサ	117	118
マメアサガオ	33	34
マメグンバイナズナ	39	40
マユミ	57	58
マルバルコウ	33	34
マンリョウ	121	
ミクリ	59	60
ミズヒキ	117	118
ミゾコウジュ	59	60
ミゾホウズキ	35	36
ミツバツチグリ	115	116
ミヤマハコベ	35	36
ムササキケマン	115	116

ヤ

ヤナギモ	38	
ヤナギ類	87	88
ヤブガラシ	61	
ヤブコウジ	121	
ヤブミョウガ	119	120
ヤブラン	121	122
ヤマザクラ	56	
ヤマジノホトトギス	119	120
ヤマトリカブト	35	36
ユウゲシヨウ	33	34

ラ

リョウメンシダ	122	
---------	-----	--

鳥たち 索引

ア

アオゲラ	123	124
アオサギ	125	126
	127	
アオジ	125	126
イカル	63	64
イカルチドリ	63	64
	125	126
イソシギ	43	44
エナガ	65	66
オオタカ	93	94
オオバン	91	92
オオヨシキリ	43	44
オナガガモ	91	92

カ

カイツブリ	65	66
	127	
カケス	123	124
カシラダカ	125	126
カルガモ	43	44
カワウ	43	44
	127	
カワセミ	63	64
	91	92
キジ	43	44
キセキレイ	125	126
キビタキ	123	124
コガモ	91	92
コゲラ	123	124
コチドリ	125	126
コハクチョウ	91	92

サ

サシバ	95	
シメ	63	64
シロハラ	125	126
セグロセキレイ	69	
	125	126
セッカ	93	94

タ

ダイサギ	91	92
チョウゲンボウ	93	94
	127	
ツバメ	43	44
トビ	93	94

ナ

ノスリ	93	94
-----	----	----

ハ

ハクセキレイ	69	
ヒヨドリ	43	44
ヒレンジャク	63	64
フクロウ	123	124
ベニマシコ	63	64
ホオジロ	93	94

マ

モズ	43	44
----	----	----

ヤ

ヤマガラ	123	124
------	-----	-----

水の中の生きもの 索引

ア

アブラハヤ	75	76
オイカワ	45	46
オウミヨシノボリ	75	76

カ

カジカ (大卵型)	75	76
カブトエビ	100	
カワニナ	45	46
カワムツ	45	46
カワリヌマエビ	77	78
ギンブナ	77	78

サ

サワガニ	47	48
スジエビ	45	46
スナゴカマツカ	77	78

タ

タモロコ	77	78
ドジョウ	45	46

ナ

ニゴイ	77	78
ヌカエビ	78	

ハ

ヒガシシマドジョウ	77	78
ハウネンエビ	100	
ホトケドジョウ	19	20

マ

ミナミメダカ	47	48
	49	
ムサシノジュズカケハゼ	75	76

ヤ

ヤゴ	47	48
----	----	----

虫たち 索引

ア

アオハダトンボ	51	52
アカシジミ	73	
アカタテハ	72	
アカボシゴマダラ	53	
アキアカネ	84	85
アサヒナカワトンボ	51	52
ウスバキトンボ	73	
ウスバシロチョウ	71	72
	85	
ウラギンシジミ	71	72
ウラゴマダラシジミ	71	72
ウラナミアカシジミ	73	
	131	132
ウラナミシジミ	52	53
オオミドリシジミ	73	
	131	132
オオムラサキ	129	130
オニヤンマ	51	52

カ

カトリヤンマ	131	132
ギンイチモンジセセリ		
	83	84
クロヒカゲ	129	130
ゴイシジミ	51	52
コオニヤンマ	71	72
	83	84
コツバメ	129	130
コノシメトンボ	133	
ゴマダラチョウ	71	72
	85	
コムラサキ	83	84
	85	

サ

サラサヤンマ	131	132
ショウジョウバッタモドキ		
	84	85
スジクワガタ	131	132

タ

ツチイナゴ	85	
ツバメシジミ	83	84
ツマキチョウ	51	52
ツマグロヒョウモン	53	

トラフシジミ	71	72
--------	----	----

ナ

ノコギリクワガタ	132	
----------	-----	--

ハ

ハグロトンボ	83	84
ハラビロトンボ	51	52
ヒオドシチョウ	131	132
ヒガシキリギリス	83	84
ヒメウラナミジャノメ	83	84
ヒメサナエ	71	72
ホソオチョウ	53	
ホンサナエ	129	130

マ

マユタテアカネ	72	
ミズイロオナガシジミ	73	
ミドリヒョウモン	133	
ミヤマアカネ	51	52
ミヤマカワトンボ	129	130
ミヤマセセリ	129	130
ミルンヤンマ	131	132
ムラサキシジミ	52	
ムラサキツバメ	53	
モンキチョウ	69	
	83	84

ラ

リスアカネ	133	
ルリシジミ	129	130
ルリタテハ	133	
ルリボシカミキリ	131	132

編集員一覧

坂戸市環境学館いずみボランティアスタッフ	稲垣喜弘
同	小西修也
同	松田映子
同	山田和子
坂戸市環境学館いずみ職員	河合 清
坂戸サワギキョウの会	萩原 章
高麗川ふるさとの会	福島倫子
鳩山野鳥の会、環境学館いずみボランティアスタッフ	富田恵理子
(団体別あいうえお順)	

協力者

赤尾美和、池辺悠子、齊藤安雄、坂口稔、鈴木伸、鈴木良治郎、代政雄、田中功、塚越俊陽、角田ひろみ、平田更一、渡辺昌和
(あいうえお順、敬称略)

表紙 四日市場付近の高麗川とカワセミ 2021年1月2日朝

坂戸の自然、川と共に

—環境学館いずみ 自然観察会の成果—

初版 2021年3月

改訂 2024年3月

編集 坂戸市環境学館いずみ 冊子作り有志

発行者 坂戸市環境学館いずみ

住所 埼玉県坂戸市泉町3丁目25-1

電話 049-284-7115